

こども教育会議 会議録(速記メモ)

日 時	場 所	出席	小松市長、松尾教育長、 大庭教育長職務代理者、教育委員(松尾、落合、竹内)、 古賀こども教育部長、教育総務課(真崎課長)、学校教育課(福田課長、富岡参事、山口係長)、こども未来課(緒方課長)、後藤総務部長、男女参画・市民協働課(奥課長、古賀主幹、アダラ CIR(国際交流員))、松尾企画部長、企画政策課(小柳課長、筒井係長、川内)
令和7年8月20日(水) 13:30～14:30	武雄市役所 4 階 災害対策本部室		
1. 協議件名	第 39 回こども教育会議(多文化共生社会の実現に向けた取り組みについて)		
議事録			
内容	1 開会(進行:松尾企画部長) 2 議事(議事進行:小松市長) (1)多文化共生社会の実現に向けた取り組みについて ①話題提供 (男女参画・市民協働課、学校教育課・こども未来課) 多文化共生社会の実現に向けて、現状や課題などについて説明。 ②意見交換 <出席者の意見> (松尾委員) ・実際に、市内のこども園において親が外国籍の子どもが在園している。言葉の壁はあり、必要なことを思うように伝えることができない状況もあった。今は翻訳アプリを駆使して説明することもある。 ・園給食も信仰宗教を理解し、提供するように努めている。 ・日本人の常識が当たり前と思わないことや、外国の方の文化や慣習をしっかり理解し受け入れることは大切。 ・相手を気遣った遠回しの伝え方が、異なる意味合いで相手に伝わったケースもあったため、ストレートに伝えることが重要と考える。また、翻訳機だけに頼らず、片言であっても英語を使って積極的にコミュニケーションを取る姿勢が重要と考える。 (竹内委員) ・市内における日本語教室の開催について、出席状況を教えていただきたい。 (男女参画・市民協働課) →日本語検定に向けた勉強として参加される外国の方が多く、出席者は特定の方に偏っている。参加を広げたいと考えるが、講師は高齢のボランティアでもあり多くなりすぎても対応が困難。 (竹内委員) ・学校では家庭にお便りを出すことが多く、学校側は伝わっているものと考えるが、伝わっていなかったケースがあった。現在は少人数のため対応できているかもしれないが、今後、さらに家族滞在型が増えていく可能性を考えると、何か仕組みが必要かもしれない。 ・日本語教室やアダラさん(CIR)などが、外国人の方への情報発信や、逆に困り感などを聞くことができればとも考える。 (小松市長) ・今ある日本語教室の活用など、あるものを活かすことでできることは、まだまだあると考える。		

(落合委員)

- ・外国人の子が住んでいる地域では、子どもたちの環境でも子ども同士でのサポートが必要になる場合がある。外国人の子どもに近い先生や友達など特定の方の負担に偏ることもあると思われる。
- ・保護者同士の交流が無いためにサポートしにくいこともあるため、多文化を知ったり交流する機会などがあってもよいのかもしれない。

(大庭教育長職務代理者)

- ・これまで学校現場において、言葉など何か困った際には、県に相談し支援を受けることが多かったが、身近に相談できる場所があることは良いことだと考える。
- ・アダラさん(CIR)だけでなく、市内にいる外国語を話せる人を登録制度等によって把握することで、相談や交流を拡充していけるのではないかな。
- ・お互いの文化を知り合うことが重要であり、例えば物産まつりなどのイベントで、お互いの食文化を知り合うような機会があってもよいのではないかな。
- ・市内に外国人が多く住んでいることはわかったものの、どこでどのように働いているかなどはわからない。市が受け入れ事業所等と繋がり、普段からどのような配慮がされており、援助が必要かどうかなど実態を把握することも重要と考える。

(松尾教育長)

- ・グローバル社会が進む中、子どもたちにとって多文化共生はますます重要になってくると考える。
- ・「言葉の壁」は、共通語である英語を中心に力を身に付け、多くの方と気軽にコミュニケーションを取れるための教育を今でも進めているが、これからは「文化・習慣の壁」や「心の壁」も取り払っていきけるような学校教育が必要だと感じた。

〈小松市長〉

- ・委員の意見を整理すると、
 - ① ストレートな伝え方、やさしい日本語など、コミュニケーションについても様々な工夫が必要であること
 - ② 日本語教室のように、今あるものをどう生かしていくかが大事であること
 - ③ 先生など特定の人だけの負担にせず、みんなでどうするかという視点が大事であること
 - ④ 私たちが、自国の文化を知って伝えることも必要であること
 - ⑤ 実態把握が大事であること

- ・市としては、外国の方も地域の同じ生活者という前提がある。
- ・今後、まずは、皆さんのお困り事や既にどういった支援や活動があるかなどの現状把握をすることが大事だと考える。
- ・知らないことが不安や恐怖に繋がるため、知ってもらうことも重要だと思う。
- ・今回の意見を参考に、教育部局、市長部局が連携を図りながら多文化共生について進めていきたい。

3 閉会(進行:松尾企画部長)